

定時制の灯を守ろう！

NO.97 2008・7・8

# 守る会NEWSLETTER

URL:<http://homepage3.nifty.com/save-teiji/> 都立定時制高校を守る会・連絡会  
連絡会事務局発行

## 7月19日(土)～

# 守る会の総会です

今年の高校入試でも、多くの中学生が夜間定時制の二次募集に応募し、かなりの数の受験生が不合格となりました。ほとんどの夜間定時制の一年生は満杯状況が続いています。また、遠くの地域から通学する生徒が増えているため、様々な問題が生じています。加えて、給食のデリバリー方式の試行が進んでいます。今の夜間・昼間定時制の状況を出し合い、さらには、格差社会といわれる中で、今の若者たちはどうなっているのか、そして定時制教育は何ができるのかについて探っていきます。多くのかたの参加をお待ちしています。

## 7月19日(土)6時から、守る会総会

### 豊島区民センター(池袋東口から徒歩5～6分)にて

#### 第一部(6時～)

一年の活動を振り返り、今後一年間の活動を確認していきます。また、各団体、地域からの報告を受け、交流していきます。

#### 第二部(7時頃から)

乾彰夫氏(都立大学)による講演～

「格差社会の中での若者たちと定時制教育の可能性」



# 自己責任や成果を超える場所

——私の出会った生徒たち、その後——

大能清子（本所工業高校・定）

定時制の一員になって今年で10年。だんだん卒業生が溜まってきました。担任していた生徒はもとより、部活動で付き合っていた生徒、なんだかよく話しにきていた生徒が、たまに連絡をくれます。

この年明けには、在学中は「この子は将来どうなってしまうんだろう」と思っていた生徒から結婚式に招待されました。ウェディングドレスを着て赤ちゃんを抱いた彼女は輝くばかりでした。一頃「できちゃった婚」などという言葉が流行りましたが、それとはちょっと違う感じがします。たしかに婚姻届を出したのは妊娠してからかもしれません。でも、そこでやっと自分の家族をつくれるというような実感。“結婚式をする”のは、式を挙げられるまで生活が落ち着いたことの証のようです。「この先も波乱万丈の人生が待っているかもしれない」と思いつつ、友人や親戚の結婚式ではシラケまくってきた私はもらい泣きをしてしまいました。

在学中にアルバイトを不当に解雇されて闘った生徒からは、念願の分野の職に就いて頑張っているという写真入りのメールが届きました。外から見れば底辺労働ですが、一歩ずつ踏みしめているのを感じます。

哀しい知らせも入ります。先週末、繁華街をうろついていた私の携帯に着信音。液晶の画面には見知らぬ電話番号が表示され、「誰ですか？」と問うとYちゃん。お母さんの訃報でした。人間関係に悩んで転校した彼は厳密には卒業生ではないけれど、それでもここ一番のヘルプコールを入れてくれました。そんな、甘え上手の彼ももう25歳。葬儀に行けない私に「声を聞けるだけでいいんだ。」と言ってくれました。

今も辛い生活を送っている卒業生もいます。

そんな子たちを見ると、生き難い世の中だなあと思います。でも、彼ら彼女らはそれぞれ真剣に考え、模索し続けているのが感じられます。教員が仕事として付き合える時間はせいぜい3～4年。留年や再入学をした生徒でも足掛け7年が私の最長記録です。多くは生育環境に恵まれなかった子たち。自己責任論が蔓延し、教員にも一年毎に「成果」が問われる今、「この子に今そんなこと言っても無理でしょ」という鬱憤と「人生は長いんだからもっと待ってよ」という願いがわだかまります。

去秋、20年前に（全日制を）退学した生徒と会いました。初めて語ってくれた当時の家庭状況とその後の“生きるための闘い”。まともに対応できなかったことを後悔し、謝るしかない私に「でも先生は今、定時制の生徒と付き合ってるでしょ」と共感してくれました。

私にできることは、携帯の番号を変えないことです。